

『古代多摩川追想-近世における歌枕の成立』

午前の部：多摩川を歩く～府中編～

— 開催報告 —



『多摩川50景』 是政の多摩川

令和2年1月18日（土）
多摩川流域懇談会

第 9 回多摩川流域歴史セミナー

『多摩川を歩く-府中編-』 開催報告（午前の部）

1 概要

- 日 時：2020 年 1 月 18 日（土） 9:30～12:00
- 場 所：ふるさと府中歴史館～府中市郷土の森博物館
- 主 催：多摩川流域懇談会
- 共 催：多摩川流域協議会
- 参加者：計 32 名（一般参加者 16 名・スタッフ 16 名）

2 プログラム

- プログラムの概要は表 1 に示す通りです。

表 1 「第 9 回多摩川流域歴史セミナー」プログラム

項目	説明者	場所
開会挨拶	神谷 博氏（多摩川流域懇談会運営委員長）	ふるさと府中歴史館
見学スポットの説明	江口 桂氏（府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課長）	各見学スポット
閉会挨拶	齋藤 勝紀氏（京浜河川事務所）	府中市 郷土の森博物館

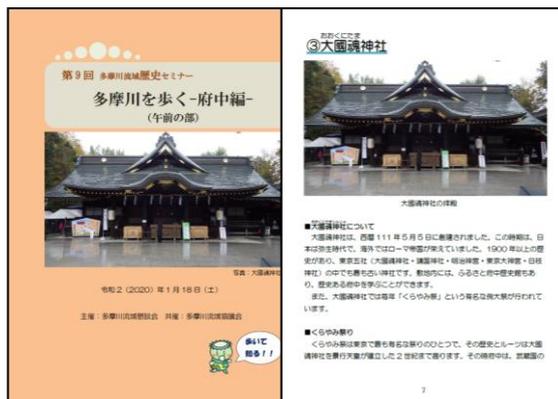
3 現地見学

当日は、ふるさと府中歴史館をスタートし、武蔵国府跡（国衙地区）、大國魂神社、武蔵国府跡（国司館地区）、三千人塚などの見学スポットを巡りました。

見学スポットでは、府中市の江口氏（府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課長）から丁寧な解説があり、参加者からは様々な質問が挙がりました。

また、途中の大國魂神社では、境内や宝物殿を神職の方に非常に分かりやすく案内していただきました。

当日は雪が降り始めるなど、非常に寒い中での開催となりましたが、ガイドの熱心なお話により、寒さを忘れるひと時を満喫することができました。



説明が掲載されたしおり



見学ルート

3.1 集合

- 午前9時30分にふるさと府中歴史館内に集合しました。
- 京浜河川事務所の高橋氏より、現地見学にあたっての注意事項やルートマップの説明がありました。



集合・注意事項の説明

3.2 開会挨拶

神谷 博氏（多摩川流域懇談会運営委員長）

- 多摩川流域懇談会の運営委員長である神谷氏より、多摩川流域歴史セミナーの主催者である「多摩川流域懇談会」についての説明、当日のプログラムについての説明がありました。
- 府中は多摩川の歴史の中でも重要な場所であるとした上で、午前中のイベントの説明がありました。



開会挨拶

3.3 見学スポットの説明



江口 桂氏

(府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課長)

移動の途中には、しおりに掲載されているものを中心として、以下のような地形や自然環境、歴史に関する説明が江口氏からありました。また、大國魂神社では、神職の方にご説明を頂きました。

①【ふるさと府中歴史館】



府中は奈良・平安時代の国府の町がそのまま現代の府中につながっており、国府のお祭りに由来する「くらやみ祭り」が現在も残っている重要な町なのです。

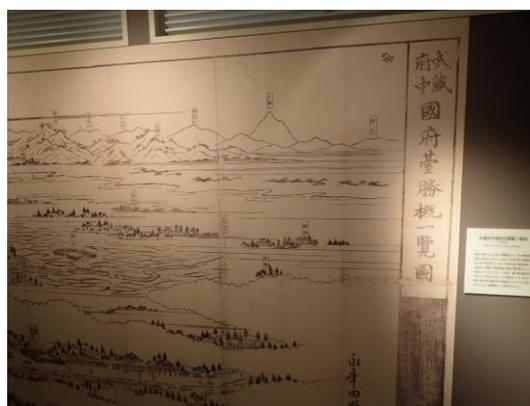
ふるさと府中歴史館では、出土品の一部も展示しており、見どころとしては、埴は、瓦、役人が使った硯すずりなどがあります。特に埴は（レンガやタイルのようなもの）には、武蔵の国 21 の郡のうち、19 の郡のスタンプが押されています。郡というのは今で言う府中「市」に当たるものと考えてもらって良いですが、郡のスタンプ

が押されているということは各郡から埴はや瓦が貢納されて武蔵国府の造営ができていたということなので、まさに挙国一致体制で武蔵国府が出来上がったということが証明できる重要な史料なのです。

江戸時代の終わりごろに府中を描いた「武蔵府中国府台勝概一覽図」も展示されており、本日見学する大國魂神社や府中御殿や三千人塚などが描かれています。



埴と瓦



武蔵府中国府台勝概一覽図

②【馬場大門のケヤキ並木】

国内で天然記念物に指定された唯一のケヤキ並木です。単体のケヤキでとして指定されているものはありますが、並木としてケヤキが指定されているのはここ府中だけです。

元々は大國魂神社の参道で、指定名称としては「馬場大門のケヤキ並木」と呼ばれています。大門というのは、神社やお寺の参道のことを指します。大正時代の指定で、その当時、馬場で参道だったため馬場大門のケヤキ並木という名前がついています。

その起源については、中がウロになっており、年輪年代が分かりませんが、平安時代の終わりに前九年・後三年の役というのがあり、そのとき奥州に平定に行った源頼義・義家親子がその戦勝祈願と勝利の礼にケヤキの木を植えたと言いつづらわれています。はっきりしたことはわかりません。その後、徳川家康が馬場を作るためにケヤキの苗を補植したのは間違いないと考えられます。

年輪年代が分かるケヤキについて伐採したところ、大体江戸時代の中頃と推測されました。一番大きなものは残念ながら枯れてしまいましたが、年輪年代を推測したケヤキと比べても幹周りが大きく、間違いなく江戸時代以前に遡る樹齢になります。

大正時代にはその大木のケヤキが60本東西に並んでおり、稀なものということで指定を受けています。現在は保護管理計画に基づいた保護活動や清掃活動を行っており、将来もこのケヤキを残せるよう取り組んでいます。

③【相撲場・宮乃咩神社】



宮乃咩神社

大國魂神社には相撲場がありますが、徳川家康に関係するものとして重要なものとして紹介します。武蔵国府跡（国司館地区）に徳川家康の府中御殿がありますが、徳川家康は江戸に入る前にここ府中に御殿を作って江戸に入りました。江戸城に入る時にそのお祝いとして相撲を取ったと言われています。それが8月1日の八朔の日なので、八朔相撲と呼ばれており、全国各地で8月1日に相撲がとられています。ここ大國魂神社でも相撲場を作って、現在は8月1日に子供相撲を行ってお祝いをしています。

もう一つ、宮乃咩神社についても紹介します。宮乃咩神社は天鈿女命が御祭神です。天照大神がお隠れになって天岩戸から出てくるときに踊りを踊った方とされます。こちらは安産の祈願でも有名で、穴のあいた柄杓がいくつもありますが、無事にお子さんが生まれるようにという願いで供えられているものです。実はこの宮乃咩神社というのは大事なお宮で栃木県の下野の国府に宮野辺（宮目）神社と、群馬県の上野の国府にも宮鍋神社があるので、武蔵、下野、上野には重要なつながりがあるのではないかと思います。

④【武蔵国府跡（^{こくが}国衙地区）】



武蔵国府跡（国衙地区）

この国衙地区が国府の中心の役所が置かれた場所です。国府というのは今の都道府県庁における役所ということで説明されていますが、実際は首都的機能を持った政治・経済・行政・文化の一大センターであると皆さんに説明しています。つまり国府というのは役所のみならず、国の中心であったといえます。今から1300年ほど前に置かれた武蔵国は、東京都と埼玉県のほぼ全域と神奈川県の一

部を含む広大なエリアであり、その中心を国府と呼んでいるのです。

国府の町自体の中心は、大國魂神社境内から東側で南北300m、東西200mの範囲に国府の中心の遺跡がありました。国府の町全体はさらに外側に東西約2km、南北最大1.8kmの範囲に広がっていました。

この国衙地区には元々病院があったのですが、その病院が移転するというので、昭和50年に南側のお宅で調査をした際に中心の建物と思われる遺跡が見つかったため、移転時の平成16年に病院跡地の調査を行い、現在のように史跡の整備を行いました。

整備した史跡は、柱で一部復元しています。その他、国分寺・府中観光振興連絡協議会というところで、「ぶらり国・府」という観光アプリを作りました。その中で3DARという機能があってARで国府の中心の建物がスマホやタブレットの画面で見られるようになっています。

⑤【大國魂神社】

<本殿>



大國魂神社（本殿）

大國魂神社は、1900年ほどの歴史のある神社とされ、御祭神は大國魂大神様です。平安時代に府中に国府が置かれた際には、大國魂神社は総社といわれる神社となりました。武蔵国の神事を行う神社として定められ、その際に武蔵国にある主要な神社の神様も一緒にお祀りをされるようになりまして、本殿の真ん中には大國魂大神様が、左右には武蔵国の主要な神社の神様として一宮～三宮の神様

が左側、四宮～六宮の神様が右側にお祀りされています。

現在の本殿は4代将軍徳川家綱のときに再建したもので、東京都の有形文化財の指定を受けています。

普通の神社では、南や東向きであることが多いですが、この神社は真北を向いています。これは 1051 年に奥州平定の願いを込めて、源義家が南向きだったものを北向きに変えました。それ以降は北向きの社殿として残っています。そのため、本来であれば真ん中、右、左の順に神格が高くなっていきますが、南向きだった当時の配置をそのままに向きだけ変えたので、大國魂神社では、真ん中、左、右の順に位が高くなっています。

<境内>



神職の方のご説明

・さざれ石

君が代にも登場しますが、小石が集まって固まって出来ている、これが日本という国を象徴しているといわれています。

・松尾神社

お酒の神様が祭られており、醸造に関する方にはよくお参りをされています。なぜ大國魂神社に松尾の神様がいらっしゃったかと言うと、江戸時代の武蔵国の造り酒屋さんが松尾社のご利益を頂きたい、近くにお呼びしてその神

様のお力のもとで酒造りをしたいということで、ここに^{おおやまくいのみこと}大山咋命という神様を京都の松尾退社より勧請されて現在に至っています。現在でも造り酒屋さんやビール工場が近くにあるということでサントリーさんがお参りにいらっしゃいます。

・地形的特徴

この神社の特徴として、参道から本殿に行くまでの間にほとんど段差がありません。石段などがない神社となります。この本殿自体もほぼ地面の上であり、少しだけ高くして建っているような状態です。また、本殿の後ろは崖の淵となっています。

・神木

本殿裏手側にあるイチヨウの木は樹齢が 800 年～1000 年と言われており、ご神木として大切に保護しています。

・東照宮

ここでは徳川家康公をお祀りしており、生前から神社とも縁が深く、静岡～日光まで御霊をお送りになるときに府中で 2 日間その御霊がお休みになり、その際に大國魂神社の宮司が祭祀を務めたと言われていました。そのような背景があり、2 代将軍徳川秀忠が神社に東照宮をお祀りしていただきました。現在は府中市の有形文化財に指定されています。

<宝物殿>

1階では「くらやみ祭り」で使用されるお神輿と太鼓を、2階では、狛犬などの宝物を展示しています。大國魂神社の中でも大きな祭りが「くらやみ祭り」で、4月30日から1週間ほど続き5月5、6日に中心的な神事が行われます。昔は5月5日の深夜0時に神輿が進んでいったというところから、「くらやみ祭り」と呼ばれるようになったそうです。現在では、5月5日の夕方18時から行い、最後の神輿が出るときには真っ暗になっています。この祭りの特徴的なところとして、先払い太鼓というのがあり、神輿が渡御する道筋を先行して進んでいき、道を清める役割を持った太鼓となっています。この大太鼓は最大直径2.5mもあり、カメルーンのブビンガーという材を使用し、1本の木をくり抜いて作られたものです。

くらやみ祭りで使用する神輿は8基ありますが、これは武蔵の総社ということで、ご祭神がたくさんいるためです。その中で御霊の神を祀った神輿があります。御霊信仰というのは平安時代からあり、非業の死を遂げた方の魂を手厚くお祀りして自分たちの守り神にするといった信仰をしていました。おそらく武蔵の国の守りとなっている神様であると考えられます。もともとはくらやみ祭りとは別の日に祭りが行われていたと言われていたようですが、いつしか同日に神輿がでるようになったそうです。ただし、現在でも御旅所まで行く道筋は他の神輿とは異なり、メインの参道ではなく、随神門を出たらすぐ左に行くようになっています。それぞれの神輿は一の宮～六の宮となっており、一の宮は多摩市の小野神社、二の宮はあきる野市にある二宮神社、三の宮は埼玉県大宮市にある氷川神社、四の宮は秩父神社、五の宮は金鑽神社、六の宮は杉山神社となっています。その神様たちがそれぞれお乗りになっているということで神輿が8基に分かれております。

2階には江戸時代初期に描かれた六所宮の境内の絵図を展示しています。一番上が南側で本殿が3棟別に描かれているのがわかるので、創建当時は3棟別々になっていて、建て替えの時に1棟に連結されたことがわかります。江戸時代初期には三重塔と鼓楼が描かれていますが、現在は三重塔は消失しています。正保年間（1646年）に府中の大火があり、その時に六所宮の建物は全て焼失してしまったとされています。実は境内に鼓楼があるのは珍しく、千葉県では飯高寺はんこうじに鼓楼がありますが、時を告げるのと重要な儀式のときにはじまりを告げる役割があります。1900年祭のお祭りのときから鼓楼での太鼓の復活を実施しまして、現在は各時間に太鼓を叩いてもらっています。太鼓は21回叩いてもらっていますが、なぜ21回なのか調べたところでは天皇陛下のご即位のときの号砲が一番最高位の礼砲である21発だそうで、今でも靖国神社では太鼓を21回叩いているそうですので、そこに由来しているのではないかと思います。

そのほか、展示してある狛犬は国の重要文化財に指定されており、運慶一派の作と思われます。また、古文書から徳川歴代将軍家から庇護を受けていたことがわかります。この中に、500石の社領が与えられているという記述がありますが、これは宮としては関東の10本の指に入る待遇であったとされます。

⑥【武蔵国府跡（国司館地区）】



武蔵国府跡（国司館地区）

平成 20 年にイトーヨーカドーが移転するということで、ここの発掘調査が始まりました。ここは徳川家康の御殿があった場所とされていて、実際この前の府中街道は御殿坂などと呼ばれていました。

発掘調査を実施したところ、国司館が見つかりました。都から武蔵国府に貴族が赴任してくる地方官を国司と呼んでいます。武蔵国府は 7 世紀終わり～8 世紀頭にここに作られたと思われ、国司の執

務場所は大國魂神社境内横の国衙で、ここに家宅があったとされます。現在 1/10 スケールの模型で国司館の様子を復元していますが、主殿は国司の家宅兼執務室、脇殿は配下の人や儀式に使う場であったと考えられます。さらに隅に附属建物と呼んでいる倉庫のようなものがあります。実際、国司館の遺跡は柱で復元している場所で見つかっています。当初は実物大で復元することを想定したのですが、維持管理のことを考え、柱のみを復元し、VR にて再現させていただきました。VR では、蹴鞠の様子や歌会の様子を再現しています。

また、徳川家康の府中御殿も発掘調査で見つかりました。最近では豊臣秀吉が作ったという説が有力になってきていますが、府中市としては大國魂神社とのつながりもやはりあるため、徳川家康が作ったという説を採用しています。この御殿は鷹狩のために宿泊する施設を御殿と呼んでいます。東海地方～関東地方にかけて徳川将軍家 3 代に渡って 100 か所ほど作られ、その中でももっとも初期の天正年間の 1590 年にここに御殿が作られました。おそらく多摩川で鳥をとる鷹狩をしていたのではないかと思います。その後 1646 年の火災で焼失し復元はされませんでした。

府中御殿は残念ながら国司館ほど正確に復元できる材料が得られませんでしたので、埼玉県鴻巣市の模型で復元されている鴻巣御殿などを参考にさせていただいて、CG 映像で徳川家康が鷹狩をするシーンを復元することができました。

⑦【三千人塚】



三千人塚

東京都の指定史跡で、多摩地区最古の康元元年の1256年の銘が入った板碑があります。戦後に学術調査がされまして、蔵骨器が発見され、鎌倉時代後期の墓地であることが分かってきました。なぜ三千人塚という名前になったのかというと、この板碑の銘を鎌倉時代の分倍河原の合戦のときに三千人亡くなってその死者を弔うために建てたという風に読み間違えたところから、三千人塚という名前がついています。現在はその名で定着していますので、そのままの名前としています。

府中市教育委員会が平成17年に発掘調査をしたところ、一字一石経と言って、お経の一文字ずつを一つの石に書かれており、その後信仰の対象として引き継がれて現在に至っているということが分かっている貴重な史跡でもあります。

3.4 質疑応答等

見学時に参加者から出された質問や感想について一部を抜粋してご紹介します。

【質疑応答】

Q：(大國魂神社本殿にて) 大変珍しい狛犬ですね。

A：左側は金色、右側は銀色の狛犬でしたが、銀はすぐ退色してしまうため、今は色がないような状態になっています。これは昭和に入ってからご奉納されたものです。一番古いと言われているのは、現在宝物殿に飾られている狛犬になります。

Q：(大國魂神社宝物殿にて) 四の宮の神輿だけ鳳凰だけなぜ内向きになのですか。

A：鳳凰が内向きになっている理由については不明です。ただし、四の宮の神輿に乗っている「ぐり」は古い形のもので、明治時代以降は一般的に鳳凰が乗るようになっていきました。

Q：(大國魂神社宝物殿にて) 神輿に乗っている神様はみな違うのでしょうか。

A：全て違う神様が乗っています。

Q：(大國魂神社宝物殿にて) 六所宮とはなんですか。

A：大國魂神社の前身である六所宮は、武蔵の国の6つのお宮の神様を集めてきたことで六所宮あるいは総社と呼ばれていました。この起源は城山日記によると、もともと国府が置かれた時代に国司が武蔵の国を巡拝する行為をしていたのが、平安時代には国内を廻るのをやめ、1か所に集めて用をたしたかったためとされていますが、実際は神様を1か所に集めることによって、国司がさらに権威を増すために総社というのを全国の国府でまとめて作ったのではないかと考えられます。

【感想・意見】

- ・大國魂神社では普段見られない場所で貴重な説明を聞くことができよかった。
- ・国司館地区がすっかり整備されていて驚いた。ぜひVR（武蔵国府スコープ）を見たい。

3.5 解散



閉会挨拶の様子

齋藤 勝紀氏（京浜河川事務所）

- 午後の会場である府中市郷土の森博物館の前で解散となりました。
- 京浜河川事務所の齋藤氏より、寒い中お越しいただいた参加者への感謝の挨拶がありました。

以上